

新たな経口の片頭痛急性期治療薬、リメゲパント

臨床試験の結果、主要評価項目の2時間後の痛み軽減（無痛～軽度）は、リメゲパントとプラセボの比較で55.9% vs 32.7%であり、差は23.2%（95%CI 15.3-31.1、 $p < 0.0001$ ）と明確でありました。

さらに2時間後の無痛は22.7% vs 7.4%（差15.3%）、最もつらい随伴症状の消失は31.1% vs 18.7%（差12.5%、 $p = 0.0005$ ）と、リメゲパントの効果は大きい結果でありました。

臨床的に、より重要なのは「その場で効く」だけでなく、24時間後のレスキュー薬が不要となった例が82.0% vs 53.8%（差28.2%、 $p < 0.0001$ ）と多い点であり、持続効果も一貫し、2-48時間の持続痛み軽減は33.9% vs 10.6%（差23.3%）、持続無痛は12.2% vs 2.8%（差9.4%）でありました。